

確かな造形力
表現を磨く。

表現する意欲
感覚を開放する。

メディアの有効利用
美しく伝達する。





芸術文化学部長
中村 謙

本学が開学し美術学科ができて22年が経ちます。スタートから時代の流れと共にカリキュラムや授業も多少変化しその時に相応しい態勢を整えてきました。たくさんの卒業生がそれぞれの分野で活躍し、時には在学生のあこがれやお手本となっています。それは歴史ある大学になりつつあるということだと思います。

はたして美術の大学で学ぶこととは何か。基礎的な造形力をつけて絵画表現を突き詰めたい。自己の表現方法を探りたい。デザイナーとしてパソコンのスキルアップをして就職に備えたい。美術の教員や学芸員になりたい等々人によって具体的な内容は様々です。しかし大きく捉えれば、各々の制作や勉強を通して美術に関する考えを深めたり、学生同志が集い刺激し合いながら交流を持つ。そしていろいろな価値観や手法を知って理解する。本来その様な環境で過ごす経験そのものが重要ではないでしょうか。そしてその経験は後の活動や生活に大きな影響を与える様に感じます。

社会に出ると美術に関わることもなかなか困難になりがちです。学生時代にはモノづくりの喜びと同時に苦しさもたくさん体験して、卒業後もなるべく継続して美術に携わっていける総合的な力を養って欲しいと考えます。そして未知の自分の可能性を信じて、たくましく社会に出て行ける人材になってもらえたらと願っています。



学科紹介動画はこちら



選択コース(日本画コース・油画コース・デザインコース)

1 年次	デッサン基礎実習・彫刻実習・構成実習(平面・立体) 総合基礎実習(日本画・油画・デザイン)
	1年次後期にコース選択 2年次にコース確定

	日本画コース	油画コース	デザインコース				
2 年次	風景制作 人体デッサン 静物制作 人物制作 動物制作	風景ドローイング オムニバス授業 ゼミ 自主制作 進級制作展	6つの研究室から選択 (各領域から課題を出題)				
			グラフィックデザイン	アドバタイジング	イラストレーション	映像デザイン	造形デザイン
3 年次	風景制作 人体デッサン	オムニバス授業 ゼミ 自主制作	研究室課題				
			古美術研究演習				
4 年次		進級制作	地域プレゼンテーション (展示発表会)				
	自由制作 人体デッサン 人物制作 卒業制作	自主制作 ゼミ 卒業制作	自由制作 卒業制作				

大学 院	専門領域の制作および研究 (より専門的な制作や研究を行う機関として大学院が設置されています)
---------	---

美術学科の入学者の受け入れの方針(アドミッション・ポリシー) 教育の理念・目的と求める学生像

美術学科の教育理念は、美術における専門家として持続的に創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材を育成することにあります。

個々の学生の美に寄せる豊かな感性を尊重しながら、実技教育を通して専門的な知識・技術を獲得させること、また、学生が相互に切磋琢磨する機会を通して、芸術文化に関する幅広い視野を身につけさせることを目的とします。その上で、作家やデザイナーとして、あるいは美術教員や学芸員等として、持続的に美術に携わることのできる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、高等学校までの学習を通して培った理解力と思考力、美術の表現力を前提とした上で、美術学科は次のような人を求めています。

- ・豊かな発想や色感を持ち、構成力、描写力などの基礎的な造形力を持つ人
- ・本学で学修を進めるために必要な基本的な知識、理解力を持つ人
- ・自らの問題意識にしたがって考え、客観的な視点を持つ意欲のある人
- ・自らの感覚や思考を、美術表現や言葉によって他者に伝える意欲のある人
- ・主体性を持って学ぶ姿勢を持ち、多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人
- ・将来的なビジョンを持ち、自らの創造性を高める意欲のある人

専攻を選択できるコース制

1年次は、基礎実技を重視して基本的な造形能力を養います。全員が共通課題として、デッサン基礎実習、彫刻実習と3つのコース課題(構成実習/日本画・油画・デザイン)を体験します。その後、各自志望コースの課題(総合基礎実習/日本画・油画・デザイン)を選択し、自己の資質と方向性を吟味します。2年次からは3つのコース(日本画・油画・デザイン)に分かれ、1年次で学んだ基礎力を踏まえて、それぞれの分野の知識や技術の修得に力を注ぎます。

美術学科では、美術における専門家として持続的な創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材の輩出を目標としています。このことを踏まえ、所定卒業単位の修得と卒業制作に加え、以下の学修成果を達成した学生に対して「学士(美術)」を授与します。

- ・美術に関連する基本的な素養を身につけ、専門分野の基礎的な知識や技術を修得し、感性を養いながら、それらを自己表現に積極的に活用することができる。
- ・広い視野で物事を捉え、課題を発見し、その解決方法を模索した上で、表現の可能性を探究することができる。
- ・美術を学んだことにより身につけた表現力や創造性を、継続的な創作活動を通して社会に発信することができる。

尾道から外部へと発信

美術学科では、尾道という「場」で制作活動を行うことの可能性を最大限に活かすことを模索しています。

大学のある久山田水源地近くの静謐な環境は、個に集中し制作に打ち込むのに適しています。

また、大学近隣の豊かな自然や尾道の街並みは、多くのインスピレーションを与えてくれることでしょう。実際に、その豊かな自然環境や風景を活かした制作や、尾道の街中を実践の場とする展覧会、イベント参加等の活動、産学連携のプロジェクトや市民団体とのコラボレーション等も活発化してきています。

今後、これらの活動が一層充実し、ここでなければ創れない独自の価値を外部に発信していくことを目標としています。

充実した制作環境

美術学科には、日本画、油画、デザインそれぞれの領域の制作に適したアトリエがあります。学生たちは潤沢なスペースでじっくりと専門の制作に取り組むことができます。

それ以外に、大人数での実習に適した大空間を持つ石膏室や、各種工房施設があります（CG、写真、彫刻、金工、木工、塗装、陶芸、版画）。各工房ではそれぞれの素材についての専門的な技術を学ぶことができます。また、学生個々の自主制作でコースの垣根を越えて工房施設を活用することができます。



CG実習室

iMac 40台を常設した実習室です。レーザープリンター、大判プロッター、3Dプリンター、製本機、レーザーカッターなどを設置。グラフィックデザインを制作したり、映像編集することに特化した充実した設備です。



彫刻実習室

2つの教室と屋根付きテラスに加え、広々とした屋外制作スペースがあります。屋内では彫塑や造形制作を、屋外では石彫などを行います。自由素材の研究の場としての利用も可能です。



金工実習室

金工技法の彫金、鍛金、鋳金それぞれの制作を行う設備が整っています。西日本の美術系大学では珍しいブロンズ、およびアルミニウム鋳造のための溶鉱炉を備えています。金属素材をベースとした造形制作に適した環境を備えた工房環境です。



木工実習室

大型木材加工用の機材が揃っている機械室と、作業スペースで構成されています。器、家具、オブジェ、絵画のためのパネルや額作りなど、木質素材をベースとした多目的な利用が可能です。



写真スタジオ

4Kビデオカメラやデジタル一眼カメラ、照明設備などが揃った撮影スタジオ。デジタルに対応した機材を導入し、撮影技術を学びます。制作した作品を撮影することもできるなど、多様な利用が可能な工房です。



塗装実習室

各種スプレー塗装に対応した大型水洗ブース、乾燥炉はもとより、漆塗りのための塗部屋、漆室を新たに備え、塗装環境をさらに充実させています。



陶芸実習室

陶芸用電気釜2基、電動ろくろ10台を備えており、器からオブジェまで、幅広い制作が可能です。



版画実習室

銅版画、木版画、リトグラフ、シルクスクリーンの4版種すべてに対応可能な充実した工房です。特に大型銅版画用プレス機は、西日本の美術系大学でも最大級の機材を設置しています。



施設の様子を

Google ストリートビューでご覧になれます



日本画コースは、基本的な専門技術を修得させ、現代の表現として展開し、個性豊かに創造し得る力を育てることを目指しています。在学中は最も多感な時期であると考えます。これからの長い作家活動をしていく上での大切な一助となるべき教育を行います。

日本画実習Ⅰ(2年次)

植物、静物、動物、風景、人物等を対象として幅広く課題を設定し、日本画材料の特性を学び、個性を活かしながら表現力を育成します。自らの絵画観をもとに自由な発想で画面に向かう意識を育てます。また箔や裏打ち技法の特別講習を行い、表現の可能性を学びます。

日本画実習Ⅱ(3年次)

個々の自由なテーマでの制作に取り組み、個性的な表現世界の発展を目指します。古典作品の模写を課して、色彩や空間に対する認識を一層深めます。また古美術研究演習では、事前学習を踏まえ京都・奈良を訪れます。

日本画実習Ⅲ(4年次)

今まで培った表現を前提に自由なテーマをより主観的に咀嚼し、研究制作を続け、より高度な創造表現を目指します。また直接作品に触れることを目的として美術館などを訪れ、美の本質に根ざした表現を模索させ感性を育てます。4年間の研究成果として卒業制作展を地域社会に向けて発表します。



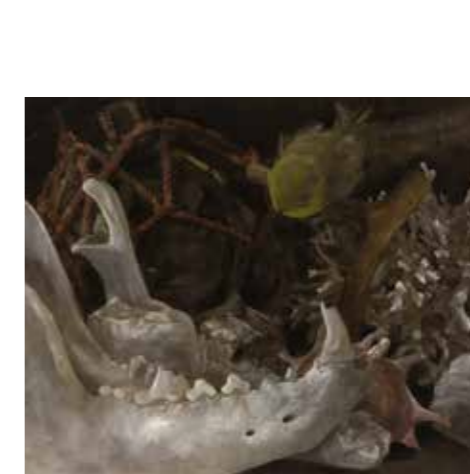
平田桃子 3年次自由制作 麻紙、岩絵具、膠 91×116.7cm



藤本滯 〈深海〉 4年次卒業制作 麻紙、岩絵具、膠、銀箔 227.3×181.8cm



羽平詩乃 3年次風景制作 麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



糸袖希 1年次剥製静物制作 麻紙、岩絵具、膠 72.7×91cm



福本このみ 4年次卒業制作自画像 麻紙、岩絵具、膠 65.2×53cm



朝平敬香 4年次自由制作
麻紙、岩絵具、膠 162×162cm



和泉優子 2年次自由制作
麻紙、岩絵具、膠 91×116.7cm



上野ひろ 2年次人物制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



武田乃梨子 3年次人物制作 麻紙、岩絵具、膠 91×116.7cm



楠玲奈 3年次風景制作
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



功刀天音 3年次自由制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



松下由佳 2年次動物制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



上野詩帆 3年次人物制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



白濱小花 2年次静物制作
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



山口咲笑 3年次自由制作
麻紙、岩絵具、膠 65.2×53cm



和田千穂 〈夏の静寂〉 4年次卒業制作
麻紙、岩絵具、膠 181.8×227.3cm



松井唯 1年次自画像制作
麻紙、岩絵具、膠 65×50cm



森雅治 1年次ユリ制作
麻紙、岩絵具、膠 72.8×51.5cm



佐藤美咲 2年次風景制作
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



児玉萌々果
1年次剥製静物制作
麻紙、岩絵具、膠
91×72.7cm



榎平詩乃
3年次古典模写制作
薄美濃紙、岩絵具、膠
25.5×28cm



大学院美術研究科日本画専攻1年
藤本 湊

わたしは、大学生になって自分の絵について考えるようになりました。理由は、高校生の時に水彩やアクリルで写真を見ながらその通りに描いており、構成したことがなかったからです。なので、あえて扱ったことのない日本画を専攻し、描き方を変えるきっかけにしました。初めは日本画材と自分の描きたいものが上手くかみ合わず苦戦しましたが、日本画のカリキュラムには人物、静物、風景等といった様々な課題があったため、対象について考える機会になり、4年生になって日本画材の扱い方も、制作へのプロセスも分ってきました。

また、構図の作り方や視線が流れていくような配置や形はアニメーション等を参考にしており、形の連なりや曲線を意識的に画面に取り入れています。そうすることで平面の中に空間を表現し、世界観のある作品を描くようになりました。

大学院の二年間は発想の中に知識を入れ込み、諧謔に富んだ作品作りを行っていくと同時に、制作活動を続けていくプロセスを確立していきたいと考えています。

〈福山駅〉 2020年制作
65.2×53cm 前期風景制作

コロナが流行し始め、外出自粛が始まる直前の福山駅を描きました。人がほとんどおらず閑散としていて、駅内のアナウンスだけが響いていたのを覚えています。



〈山水肖像〉 2021年制作
91×126.7cm 前期人物制作

木々が勢いを増して、青々と緑深く繁る夏山からイメージした作品です。夏山を描きたい気持ちと人物制作の課題を描かなければいけない義務感から生まれました。山水画を参考にして組み合わせています。



〈来迎〉 2022年制作 130.3×194cm 後期自由制作

尾道のお寺を回っているとき、ふと幼少期の空想を思い出したのでそのイメージを表現しました。空間の広がりを作りつつ、中心の如来の存在感が出るように魚眼パースを使用しました。

油画コースは、絵画表現を軸に、各自が創作と生きる
ことの可能性を主体的に追求していく姿勢を培うことを目
標としています。

個々の制作の場を起点に、多様な学びや対話機会を
作り出すことで、自己の興味・関心を模索し、課題を立て、
自ら取り組む姿勢を養うと同時に、制作の場をシェアする
ことによって相互刺激の場を創り出します。

油画実習Ⅰ（2年次）

個々の学生が自身の資質を発掘し、表現の可能性を見
出す機会として、各担当教員の視座を反映した多彩な実
習やゼミ、および自主制作を並行して行なっていきます。
また、同級生や他学年、教員、ゲストスピーカーとの意見
交換を通じ、自身の考えを自覚的に発展させていく場も
作り出します。

油画実習Ⅱ（3年次）

3年次では自身の表現内容を模索すると同時に、個々
の表現にふさわしい形式、描画材料も実験しながら、
制作を行っていきます。後期最後の進級制作ではその試
みを大学美術館で展示します。また、古美術研究は作品
鑑賞体験を自身の制作の糧とする機会になります。

油画実習Ⅲ・卒業制作（4年次）

4年次はこれまでの自主制作で見つけた課題を踏まえ
て、それぞれのリアリティを存分に追求していく時間とな
ります。その成果は卒業制作として尾道市立美術館で開催
される卒業制作展で展示されます。



小西美幸、津島太郎、名座昌美 〈blue smoke and mirrors〉
3000×6000mm 刺繍糸



名座昌美 〈ナフサ〉 修了制作 不定形 透明水彩、アクリル板など



津島太郎 〈イレギュラー〉〈コンプレックス〉 修了制作 インスタレーションビュー



笹田わかこ 〈春愁秋思〉 卒業制作 1940×2606mm キャンバス、油彩



宮原雄成 〈Slough of Despond〉
卒業制作インスタレーションビュー



西原なずな 〈同じ夜〉 1303×1620mm キャンバス、油彩



倉持綾愉子 〈ゆめのつづきを〉 1303×1620mm キャンバス、油彩



古賀匠弥 〈Social Kitchen 34° -24'22"N133° -11'50"E〉〈Friend 34° -24'39"N 133° -12'34"E〉
卒業制作 各910×727×200mm



黒田貴子 〈白い人と猫〉
鉛筆、アクリルガッシュ、実写素材



森野美里 〈そしてきみと運命になる。〉卒業制作



小見山勇太 〈なんかいか〉
1940×162mm キャンバス、パステル



青沼樹璃 2年次自由制作 1167×910mm
キャンパス、油彩



岡田楓花 2年次自由制作
910×520mm パネル、油彩



遠山奈実子 2年次自由制作
1303×970mm パネル、油彩



山中みゆ 2年次自由制作
500×606mm キャンパス、油彩



上田俊 2年次観葉植物油彩
900×1300mm パネル、油彩



小川裕美 2年次自由制作
520×910mm パネル、油彩



羽生なつき 1年次人物油彩
530×652mm キャンパス、油彩



岩田幸穂 2年次100枚ドローイング



美術学科3年
遠山 奈実子

私は普段から身体性や存在性に関心をもって制作をしています。

鏡に映る私と、向かう貴方と、ものや風景などと目が合った時、身体が形態や機能性を忘れて細かく分解され、空間に揺蕩んだり融け合うような穏やかな浮遊感を覚えます。このような形容し難い身体感覚の揺らぎを再現することで、誠実な身体の在り方や触れ方について潜考する機会となるよう試みています。

表現手段としては主に絵画を選択しています。自分の考えや経験を絵画に変換することは難しく感じますが、より忠実な画面作りができるように様々な手法を用いて模索するようにしています。最近は多様な素材を掛け合わせたマチエールや支持体作りなどに取り組んでいます。

今後の展開として、映像制作や尾道特有の環境に介入するような制作など、絵画以外の表現技法にも横断的に取り組んでいき美術表現について考えを深めていきたいです。ここでは仲間や先生方が快く活動の応援やサポートを行ってくれます。周囲の人や環境の助けを借りながら、自分の表現したいことへの素直な姿勢を大切に今後も制作に励みたいと思います。



〈U〉 1303×970mm 2022

友人の肖像画で、他者と視線を交わすからこそ感じる体温変化を保存する様な感覚で描きました



〈ドローイング〉 2021-23

生活で感じたことをメモするようにドローイングを行う事を日課にしています。実験的にいろんな表現を記録していて、制作の手がかりになっています。

教育の基本方針

デザインコースでは、各研究室の専門領域を基本としながらも、興味のあることは、研究室間の連携と領域を越えた指導を受けることが可能なカリキュラム編成となっています。これにより幅広い視野によるデザインの視点から表現できる能力を培うことができます。



デザイン実習Ⅰ(2年次)

2年次前期は6つの研究室から選択課題を選択し、専門とする領域の選択期間とします。2年次後期より6つの研究室に分かれて各領域の基礎を学びます。

- ・世永研究室：グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン全般の研究
- ・伊藤研究室：広告やパッケージデザインを軸としたグラフィック表現の実践的研究
- ・野崎研究室：イラストレーションのメディア展開を通してデザインと表現の関係を研究
- ・黒田研究室：モーショングラフィック、アニメーション、実写などの映像デザインの研究
- ・桜田研究室：各種素材を使った造形表現、空間造形表現などの研究
- ・林研究室：木工、漆芸(塗装)を主とした器、家具など自然素材によるクラフトデザインの研究

デザイン実習Ⅱ(3年次)

2年次で学んだ基礎をもとに各領域の課題に取り組み、さらに各領域が連携したコラボレーション課題で視野を広げ表現力を身につけます。後期に取り組む地域プレゼンテーション課題では3年次のまとめとして大学美術館にて展示、しまなみ交流館では発表を行います。

デザイン実習Ⅲ・卒業制作(4年次)

デザイン実習Ⅲでは自身で自由なテーマを設定し制作を行います。卒業制作では4年間の集大成として、その成果を尾道市立美術館にて発表します。

デザイン研究Ⅰ,Ⅱ(大学院)

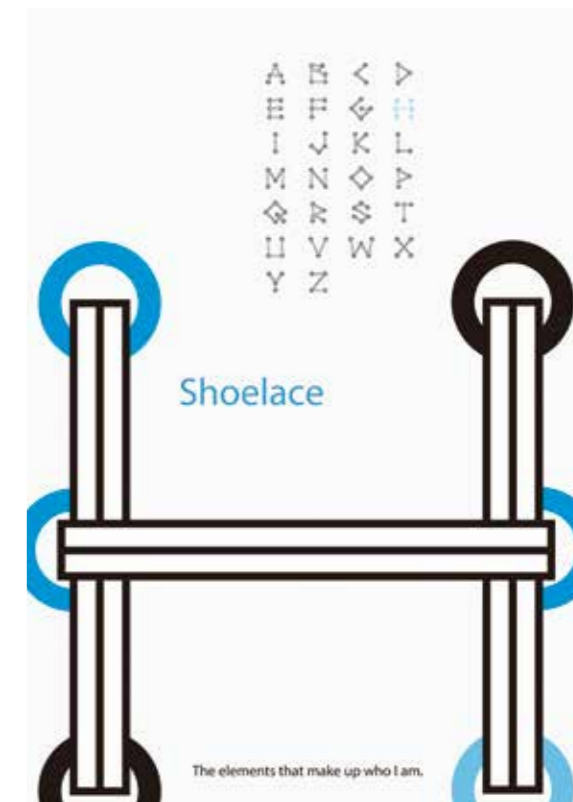
大学院ではより専門的な研究や制作を行うことができ、自身で設定したテーマに基づき研究し、その成果を進級制作展、修了制作展として大学美術館にて発表します。



松尾綾美 〈ハウス工作キットシリーズ〉卒業制作 ハウス貯金箱



土屋果央 〈カードイラストレーション〉2年次デザイン実習Ⅰ



溝端早輝 〈typography〉卒業制作 ポスター



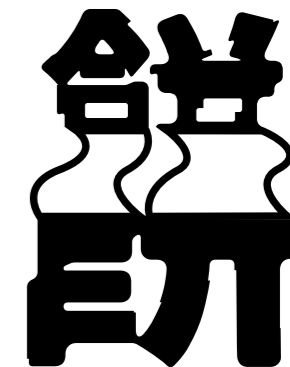
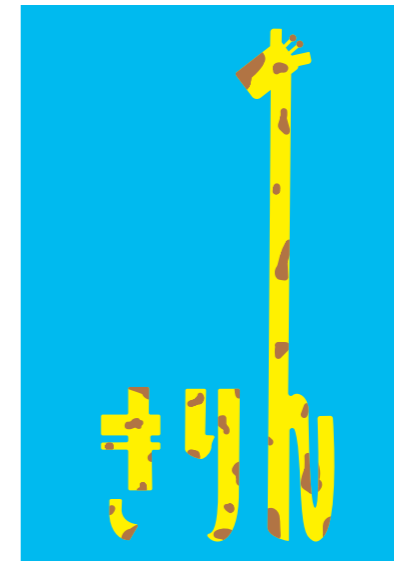
佐野優菜 〈Folk Toys Yunagi〉 3年次地域プレゼンテーション課題



長野風花 〈スツール課題〉 2年次デザイン実習I



大崎日菜 〈パンチ〉〈きりん〉 3年次コミュニケーションロゴ課題



田中美帆 〈餅〉 コミュニケーションロゴ課題



川畑知音 〈Nishinari〉 卒業制作 写真



木原果音 〈ハンガー課題〉 1年次構成実習



青木志織 〈3Dプリント〉 デザイン実習I



山本真由香 〈おのみちのみち〉 3年次地域プレゼンテーション課題



森永千夏、徳永月子、玉田真里夏 〈ランプシェード課題〉 1年次構成実習



森永千夏 1年次総合基礎実習



花田詩穂 〈ロゴ課題〉 1年次構成実習



濱田菜奈 〈ロゴ課題〉 1年次構成実習



木原果音 〈シルエット課題〉 1年次構成実習



田中善 〈シルエット課題〉 1年次構成実習



美術学科デザインコース3年

青木 志織

以前から木の質感や温もりが好きで、木を用いたものづくりをしたいという気持ちと、様々な素材にも触れてみたいという思いからクラフトデザイン領域を選択しました。クラフトデザイン領域では木工を中心とした制作を行っていますが、塗装では漆も扱えることが特徴です。素材の声に耳を傾けながら丁寧に作業をしている時間はとても心地良く、私の大好きな時間です。その地道な工程を経て出来上がった作品は人の手、素材の温もりで満ち溢れていて、とても愛おしいです。作品は日常生活で使うことで心や生活が豊かになるだけでなく、触れて使ってみないと知り得なかったことを感じるすることができます。そのことが次の制作に生かされ、私も作品も成長していくのだと感じています。2年生でスツールやテーブルウェアの制作、陶芸など、様々な素材に触れ技法を学びました。制作を通じてものづくりの楽しさ、実際に使ってみた時の心のときめきを知りました。そして先輩たちが藍染、草木染、和紙やフェルトを使ったものづくりなど、興味のあることへ積極的に挑戦する姿にも刺激を受けています。

3年生では地域プレゼンテーション課題があります。地域の方々と交流をしたり、現状を見つめ、学んできたことを活かして自分にできること、新たにやってみたいことを模索していきたいと思っています。



青木志織 〈スツール課題〉 2年次デザイン実習II



青木志織 〈テーブルウェア課題〉 2年次デザイン実習II

美術学科教員はキャンパス内で創作・研究を行っています。

教員の研究室は美術学科棟の学生アトリエスペースの、廊下をはさんだ向かい側にあり、学生は多彩な専門領域で活動している教員の創作・研究現場を日常的に訪れることができます。

また、コース制をとっていることから、多くの創作・研究が共存していますが、各専門領域の垣根が低く、異なる領域の学生・教員間の対話が頻繁に行われているところも本学の美術学科の大きな特徴と言えるでしょう。



教授(日本画コース)

中村 譲

1964年 香川県高松市生まれ
1989年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
1991年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了
1993年 東京藝術大学大学院美術研究科後期博士課程
絵画日本画専攻単位取得退学

1994年 東京藝術大学日本画科非常勤講師(～2001年)

[公募展]

1994年 再興第79回「院展」初入選/東京都美術館
1995年 第50回「春の院展」初入選/日本橋三越本店
2001年 第56回「春の院展」奨励賞(以後2007,08受賞)
2003年 再興第88回「院展」奨励賞(以後2004受賞)
2006年 再興第91回「院展」日本美術院賞(大観賞)
(以後2008年受賞、同足立美術館賞)

2013年 第68回「春の院展」春の足立美術館賞

[個展、グループ展]

1994年 「有芽の会」展 法務大臣賞/有楽町西武
2001年 「更生保護」(法務省保護局月刊誌)
担当月表紙絵個展/ナカジマアート/銀座
2007年 中村譲日本画展「Favorite scene」高松天満屋
(以後百貨店開催、2010,2012,2014,2019,2022)

2017年 香川県文化芸術選奨表彰

2022年 小林和作賞

現在 日本美術院同人、香川県文化芸術振興審議委員



〈九份警崎路〉 紙本彩色 170×215cm 2021



准教授(日本画コース)

鈴木 恵麻

1997年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
1999年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了

[画歴]

1999年 第54回「春の院展」初入選
2001年 「有芽の会」全国更生保護婦人連盟会長賞
2002年 「有芽の会」法務大臣賞
再興第87回「院展」初入選

2004年 第59回「春の院展」奨励賞
(以後2016、2018、2020、2021受賞)

2007年 再興第92回「院展」奨励賞
(以後2009、2019、2020、2021受賞)

2009年 再興第94回「院展」天心記念茨城賞
2018年 第73回「春の院展」春季展賞
日本美術院奨学金

[個展、グループ展]

2004年 個展「レスポワール展」/銀座スルガ台画廊
2009年 個展 EMA作品展—鈴木恵麻作品展—/そごう横浜(2011年)
2013年 個展「更生保護」(法務省保護局月刊誌)担当月表紙絵個展/
ナカジマアート

2021年 個展「鈴木恵麻展」/尾道市立大学美術館

2022年 箱根芦ノ湖成川美術館コレクション展

2023年 セレネ美術館開館30年・宇奈月温泉開湯100年記念「日本画
の新星たち展」/セレネ美術館

現在 日本美術院 特待



〈夜語り〉 紙本彩色 211.4×166.5cm 2022



講師(日本画コース)

山梨 千果子

2005年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科卒業
2007年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(日本画)修了
2011年 尾道市立大学MOU尾道市立大学美術館 スタッフ
2013年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助手(～18年)

[受賞・展覧会歴]

2005年 第7回広島県岡山県大学美術系卒業制作選抜展(ふくやま美術館/
広島)
2007年 修了制作「ナツしたく」・修了模写「法隆寺金堂第十一壁画(部分)模写」
大学賞上賞
第62回春の院展「涼音 すずおと」初入選(日本橋三越/東京・広島ほか
巡回)

2008年 現代の中国画と日本画展(グループ展)(ふくやま美術館/広島)
2009年 再興第99回院展「聞こえるよ」初入選(東京都美術館/東京・広島ほか
巡回)

2010年 In Focus 展(グループ展)(MOU尾道市立大学美術館/尾道)
2012年 揺籃展(グループ展)(MOU尾道市立大学美術館/尾道/15、18年)
2014年 ツナガルケシキ(グループ展)(大三島美術館/愛媛)
2016年 第4回郷さくら美術館桜花賞展(郷さくら美術館/東京)
2017年 再興第102院展「なつのおと」奨励賞(東京都美術館/東京・広島ほか
巡回)

はなの日(個展)(かわうそ画廊/東京)
2018年 第73回春の院展「みえる みられる」奨励賞(日本橋三越/東京・広島
ほか巡回)

2021年 尾道市立大学日本画展(グループ展)(小津和紙ギャラリー/東京)
2022年 第77回春の院展「節季」奨励賞(日本橋三越/東京・広島ほか
巡回)

現在 日本美術院 院友



〈枝々の行方〉 岩絵具、膠、麻紙 165×215cm 2022



教授(油画コース)

小野 環

1973年 北海道函館市生まれ
 1996年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 1998年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻修了
 1999年 東京藝術大学油画科非常勤講師(～2001年)
 現在 AIR Onomichi代表、NPO法人尾道空き家再生プロジェクト副代表理事

[個展]

2000年 「キツネ作戦」/フタバ画廊/東京
 2002年 「小野環展」/appel/東京
 2005年 「gardens」/ギャラリーそわか/京都
 2008年 「gardens 植木鉢の冒険」/ふくやま美術館/福山
 2010年 「足下の辺境」/尾道市立大学美術館/尾道
 2013年 「ユートピアの迷子石」/Utopiana/ジュネーブ※
 2021年 「Re - edit」/光明寺會館/尾道

[グループ展]

2003年 ヒロシマアートドキュメント2003(2008年※)/旧日本銀行広島支店/広島
 2004年 VOCA展/上野の森美術館/東京
 2007年 AIR Onomichi/尾道山手地区/尾道※(2011年※)
 2008年 tina.b プラハ国際現代芸術祭2008/プラハ市※
 2012年 UTOPIA ~何処にもない場所~/百島/尾道※(2013,14年)
 2017年 dr/op Beyond Boundaries/グッドマンアートセンター/シンガポール
 2018年 「複数形の世界のはじまりに」/東京都美術館/東京
 2019年 ONLY CONNECT OSAKA/クリエイティブセンター大阪/大阪
 2021年 第24回岡本太郎現代美術賞展 特別賞/川崎市岡本太郎美術館/川崎
 2022年 「いにしよによる一断片たちの囁きに耳を」/瀬戸内海歴史民俗資料館/香川
 (※作家三上清仁とのユニット)



〈再編 神奈川県立近代美術館〉
美術全集、構造用合板ほか 2021



准教授(油画コース)

橋野 仁史

1982年 熊本県生まれ
 2005年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科卒業
 2007年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(油画)修了
 尾道市立大学芸術文化学部美術学科助手(～2017年)
 尾道市立大学芸術文化学部美術学科助教(～2018年)

[主な展覧会]

2007年 第81回国展/以後毎年
 2008年 第82回国展 絵画部奨励賞
 尾道からの「3人展」/アートガーデン/岡山
 2009年 国展 受賞作家展/井上画廊/東京
 2013年 Gg展/ふくやま美術館/福山/以後毎年
 2014年 第88回国展 会友賞、準会員推挙
 2015年 国展 受賞作家展/銀座アートホール/東京
 KKT/ギャラリー向日葵/東京/以後毎年

2017年 「橋野仁史絵画展-Fog」福山天満屋/福山/'19年,21年
 2018年 「Gg2展」福山天満屋/福山/以後毎年
 2019年 「再考 人間と自然」広島県立美術館/広島
 2021年 中曾智子・橋野仁史2人展一風薫る-/GALLERY森・hako/福山
 2022年 meet a new/福山天満屋/福山



〈Schliere〉 油彩、キャンバス 194×162cm 2021



准教授(油画コース)

稲川 豊

1974年 東京生まれ
 1997年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 2004年 CHELSEA COLLEGE OF ART AND DESIGN,
 ロンドン, MA FINE ART 修了

2007-09年 文化庁新進芸術家海外留学制度2年派遣/ロンドン/イギリス
 [個展]

2005年 “HYBRID”/Gallery Zandari/ソウル・韓国
 “YUTAKA INAGAWA EXHIBITION”/Galerie Suty/フランス
 2007年 “Yutaka Inagawa Solo show”/New Art Center/ニューヨーク
 2008年 “Nonplace overlay”/Bodhi Gallery/ロンドン
 2009年 “Sensory Cocktails”/Gallery Zandari/ソウル・韓国
 “Crazytokyo”/Galerie Suty, Coye-la-Foret/フランス

2014~15年 “The invasion of Cyberspace”/Unit 24 Gallery/ロンドン
 2015年 OTAK JEPUN | Yutaka Inagawa / Lorong Kekabu / クアラルンプール
 2022年 符と思う | eASY mECHANISM / MOU 尾道市立大学美術館 / 尾道
 [グループ展]

2007年 “Trajectories”/The Agency/ロンドン
 2007年 “The 8th SHINSAIMDANG Art Festival”/Gangueng Museum/韓国
 2008年 “Cosmopolis”/Pipy Houldsworth Gallery/ロンドン
 2017年 Floating Urban Slime / Sublime / アートギャラリーミヤウチ/広島
 2018年 I Say Yesterday, You Hear Tomorrow. Visions from Japan / Gallerie delle Prigioni / トレヴィエーゾ/イタリア
 2019年 ONLY CONNECT OSAKA / クリエイティブセンター大阪/大阪
 2019年 Another Pair of Eyes (企画・出品) / Duddell' s / 香港



インスタレーション・ビュー
 符と思う | eASY mECHANISM (2022)
 / MOU 尾道市立大学美術館



講師(油画コース)

西村 有未

1989年 東京都生まれ
 2014年 東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻 卒業
 2016年 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)修了
 2019年 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程美術専攻研究領域油画
 修了・博士(美術)学位取得

[個展]

2012年 「毛わらと油」美術出版社ビューイングスペース(東京)
 2013年 「TWS-Emerging2013:例えば祖父まで、もしくは私まで。こもり出現」
 TWS 本郷(東京)

2020年 「図形的登場人物(雪娘)と望春の花」FINCH ARTS(京都)
 2022年 「図形的登場人物と雪娘 シーズン2」FINCH ARTS(京都)
 2022年 「犬、石、物、語り(上巻)」HARMAS GALLERY(東京)

[グループ展]

2010年 「現役美大生の現代美術展 -Produced by X氏」Kaikai Kiki gallery,
 Hidari Zingaro(東京)

2012年 「トーキョーワンダーウォール2012」東京都現代美術館(東京)
 2016年 「第3回CAF 賞入選作品展」3331 Arts Chiyoda(東京)
 2021年 「絵画の見かた reprise」/K Contemporary(東京)
 「Encounters in Parallel」ANB Tokyo(東京)
 2021年 「猫とマチエール」MtK Contemporary Art(京都)
 2022年 「Kyoto Art for Tomorrow 2022 -京都府新鋭選抜展-」京都文化博物館(京都)
 2022年 「或る絵肌一物語るマチエール」日本橋三越本店本館6階美術サロン(東京)

[コレクション]

山梨学院大学、高橋龍太郎コレクション、KANKURO UESHIMA COLLECTION

[ワークショップ]

2019年 練馬区立美術館

[賞ほか]

三菱商事アートゲートプログラム2013 奨学生、第3回CAF賞保坂健二朗賞



〈犬、石、物、語り(下巻1-4)〉 油彩、パネル 65×65cm
 2022



教授(デザインコース)
野崎 眞澄

1958年 東京生まれ
1979年 多摩美術大学デザイン科グラフィックデザイン専攻入学
1983年 Japan Graphic Center 勤務(デザイナー)
1985年 B/Half Japan 勤務(アートディレクター)
1989年 CHIPS CLUB 設立
[活動・受賞歴]
1990年 J.A.I New York Exhibition at Art54 グループ展
1991年 第5回 From A The Art展/奨励賞
1991年~1998年 青山Pinpoint Gallery 個展(4回)
1992年 第1回 リビングアート・コンペティション/入選
1997年 第48回全国カレンダー展/日本印刷産業連合会会長賞
2004年 コースター絵画展/ホテル・キャメロット・ジャパン賞
2009年 原宿HB Gallery「TOYS」個展
2011年 第65回読書週間ポスターイラスト公募展/入選
2011年 明治神宮前 Gallery ni Modo「FISH & CHIPS」個展
2012年/2013年 第1回、第2回 東京装画賞展/入選
2013年 尾道市立大学美術館 野崎眞澄×石川康彦 二人展
2014年 竹尾見本帖本店展示スペース「製本のチカラ」グループ展
2016年 竹尾見本帖本店展示スペース「本迷宮」グループ展
2019年 尾道市立大学美術館「感覚のかたち」デザイン教員展
2022年 尾道市立大学美術館「はじまりのかたち-素描-」展



〈Magical Mushroom Band / Spring Drum〉
H329 W130 D105mm / 木材にアクリル絵の具、金属、他



教授(デザインコース)
桜田 知文

1960年 広島県広島市生まれ
1984年 東京藝術大学美術学部工芸科卒業
1986年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程鑄金専攻修了
[制作歴、受賞歴]
1987年 第3回現代九州彫刻展 入選(石橋美術館)
1991年 広島パークビル前に野外彫刻設置
1992年 第30回日本現代工芸美術中国会展 広島市長賞受賞
1993年 洞爺村国際彫刻ビエンナーレ 作品買上(’97年も買上)
1995年 第34回日本現代工芸美術展 現代工芸大賞受賞
1997年 さかいで Art グランプリ '97 秀作賞受賞(坂出市民美術館)
1998年 第1回佐野ルネッサンス鑄金展 入選(第2回も入選)
2000年 第40回日本現代工芸美術展 現代工芸本会員40回記念賞受賞
2004年 第43回日本現代工芸美術展 現代工芸本会員賞受賞
2005年 尾道市小中学校芸術祭 グランプリトロフィー制作
2009年 八千代の丘美術館 第8期入館
2010年 東尾道彫刻公園に野外彫刻設置
2012年 第44回日展 特選受賞
2016年 東広島市立美術館 作品収蔵
2020年 桜田知文作品展 -こころのままに- (美術館あーとあい・きさ)
2022年 第9回日展 特選受賞
現在 日展会友、現代工芸美術家協会評議員



〈オマーゼジュ 勝利の女神ニケ〉
アルミニウム、真鍮、ステンレス H65×W45×D17cm
2022



教授(デザインコース)
世永 逸彦

1959年 東京都生まれ
1984年 多摩美術大学デザイン科グラフィックデザイン専攻卒業
1984年 高原宏デザイン事務所入社
1991年 世永デザイン事務所主宰
2014年 尾道市立大学 芸術文化学部美術学科教授就任
[デザイン活動歴]
1985~1988年 雑誌「流行通信」D。(高原宏デザイン事務所勤務)
1991~1994年 〈新日本フィル交響楽団〉公演印刷物 A.D.&D.
2001~2004年 〈Fountains〉JALホテルPR誌 日本航空 表紙&誌面 A.D.&D.
2008~2010年 〈HIBIYA Style〉帝国ホテルプラザPR誌 帝国ホテル 表紙&誌面 A.D.&D.
2008~2013年 〈てんとう虫〉UCカードPR誌 クレディセゾン 表紙&誌面 A.D.&D.
2011~2014年 〈Mart〉女性誌 光文社 表紙&誌面 A.D.&D.
1998~2016年 〈SAYA & Works〉婦人靴広告・販売促進ツール C.D.&D. 他多数
2016~現在 ブックデザイン、ポスターを中心に、デザイン活動、企画展など。
[展覧会歴]
2014年 『製本ノチカラ』展 会場:東京神田・錦町 竹尾見本帖2階、グループ展
2014年 『ツナガケシキ』グループ展 今治市大三島美術館
2016年 『本迷宮』本を巡る不思議な物語展 会場:東京神田・錦町 竹尾見本帖2階、グループ展
2019年 『国立嘉義大学×尾道市立大学 交流展』グループ展 Chiayi Cultural Bureau /台湾・嘉義
2019年 『装丁万華鏡』展 会場:東京神田・錦町 竹尾見本帖2階、グループ展
2019年 『感覚のかたち』展 グループ展 会場:MOU尾道市立大学美術館



〈pachira_mobiles_R〉ポスター
局紙、インクジェット、H1030×W728mm
2022



准教授(デザインコース)
林 宏

1967年 大阪生まれ
1994年 東京藝術大学美術学部工芸科 卒業
1996年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程漆芸専攻 修了
2020年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 准教授
[活動歴]
2005年 日本文化財漆協会 常任理事
2011年 ナチュラルマテリアルプロジェクト 循環型自然素材の開発及び研究
2013年 漆芸を支える道具の調査研究
作品収蔵 東京藝術大学 フィラデルフィア美術館
[展覧会歴]
2012年 東京藝術大学創立125周年記念事業「漆芸 軌跡と未来」招待出品(東京藝術大学)
ナチュラルマテリアルプロジェクト(六本木ル・ベイン)
器奏天回茶展(うおかし銘茶 築地新店)
日本のいろ展2012(松岡山東慶寺 白蓮舎)
個展 林宏 漆の器展(栃木 アルゴノート)
japanin vari [Natural material projects] (フィンランド ヘルシンキ)
2014年 志木呂の会展(新宿 伊勢丹)
漆芸二人展(瑞玉ギャラリー 東京)
2015年 草木と漆の器展(代官山 無垢里)
日本のいろ 展(松岡山東慶寺ギャラリー)
草木と漆の器展(代官山 無垢里)
2016年 志木呂の会展(松岡山東慶寺ギャラリー)
2017年 志木呂の会展(松岡山東慶寺ギャラリー)
2018年 陶と漆の器展(代官山無垢里)
2019年 感覚のかたち展(MOU尾道市立大学美術館)
陶と漆の器展(日本橋三越)
2022年 はじまりのかたち展(MOU尾道市立大学美術館)



〈漆碗〉各約4寸 板、漆、顔料 2022~2023

Hayashi Hiroshi Urushi Design
<https://hayashihiroshi.net>

尾道市立大学 デザインコース クラフトデザイン
<https://onomichi-craftdesign.myportfolio.com>



准教授 (デザインコース)

伊藤 麻子

2005年 愛知県立芸術大学 美術学部 デザイン工芸科 卒業
株式会社GK グラフィックス勤務 (~2008)
2011年 東邦高等学校 美術科 非常勤講師 (~2012)
2012年 大垣女子短期大学 デザイン美術学科 講師 (~2017)
[活動歴]
2005年~2008年
(デザイン制作会社勤務中の実務)
果汁飲料 PET ボトル パッケージデザイン
缶コーヒー パッケージデザイン
紅茶ギフト パッケージデザイン
化粧品 パッケージデザイン
文具パッケージデザイン 他
2009年~
「skin sweets」パッケージデザイン
展示会「二人ノ図鑑展」(2014, 表参道)
展示会「感覚のかたち」(2019, デザイン教員展)
緑茶商品パッケージデザイン他
グラフィックデザイナーとしてデザイン業務に携わりつつ、
真鍮による立体造形表現も思案している



〈kikku ton〉グラフィックシリーズの展開 2019~



教授 (日本美術史・博物館学)

市川 彰

1971年 愛知県生まれ
1995年 京都大学文学部美学美術史学専攻卒業
2001年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程 (美学美術史学専攻) 単位取得退学
2000~03年 萬野美術館学芸員
2004~07年 京都文化博物館総務課主事
2007~12年 京都文化博物館学芸員
[論文等]
1997年 絵描きの玉手箱 伊藤若冲の鶏
『茶道雑誌』第61巻第1号 河原書店
1999年 若冲画に示されたもの - 「動植絵」以前の三件の鶴を主題とする着色表現をめくって -
『研究紀要』第20号、京都大学文学部美学美術史学研究室
2007年 若冲画に示されたもの2 - 《初期作品》「雪梅雄鶏図」をめくって -
京都文化博物館紀要『朱雀』第19集
2014年 名所図会に記された京都の「名宝」(一)
尾道市立大学芸術文化学部 紀要 第13号
[展覧会]
2008年 永樂即全『源氏物語五十四帖』と十七代永樂善五郎展
京都文化博物館企画展
2008年 『読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界~浮世絵から源氏意匠まで~』展
京都文化博物館特別展



講師 (デザインコース)

黒田 教裕

1987年 宮城県生まれ
2011年 武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業
2014年 武蔵野美術大学大学院造形研究科
デザイン専攻映像コース退学
2014~15年 武蔵野美術大学造形学部映像学科 非常勤講師
[活動歴]
2014年 「Media Ambition Tokyo 2014」
六本木ヒルズ52F 東京シティービュー
2015年 「New Creators Competition 2015」
静岡クリエイター支援センター CCC
2016年 「2016 CHANGWON ASIA ART FESTIVAL」 韓国・昌原市
2019年 「続々 三澤 遥」ギンザ・グラフィック・ギャラリー (映像編集)
「松島オープンスタジオ」 岡山県倉敷市 松島分校美術館
(公開滞在制作)
「まにわ映像フェスティバル2019 勝山スクリーン・フィールド」
岡山県真庭市
「感覚のかたち」デザイン教員展 尾道市立大学美術館
2022年 漆 田代明樹男・映像 黒田教裕「物質と記憶」のトレモロ
三原市芸術文化センターポポロ



〈光風 - Quiet Shine〉映像 20分ループ UHD30p 2023



准教授 (西洋美術史・美学)

西嶋 亜美

北海道旭川市出身
2006年 京都大学文学部人文学科卒業
2009年 京都大学大学院文学研究科修士課程修了・博士後期課程進学
2010~2012年 パリ・ソルボンヌ大学美術史考古学研究所招待研究員
2013年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学
京都大学博士 (文学)
[研究歴]
専門はフランス近代美術史で、画家ドラクロワやオリエンタリズムについて研究しています。
・『ウジェーヌ・ドラクロワの物語画と文学』京都大学大学院文学研究科課程博士学位論文、2016年
・「ドラクロワによる二点の『ジャウールとハッサンの闘い』—戦闘イメージの起源と北アフリカ旅行の意義をめぐる考察—」
『日仏美術学会会報』(34)、2015年、3-23頁
・「ドラクロワの『日記』における絵画と文学の位置付け—主題、表現形態、制作過程の三つの観点から—」『藝術研究』(28) 2015年7月、31-45頁
・「ドラクロワの『モロッコ旅行記』試訳」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第16号、2017年、69-86頁
・「ドラクロワ『プッサン論Ⅰ、Ⅱ』(1853年) 試訳」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第21号、2022年、67-80頁
・「19世紀中葉のパリで描かれた同時代の恋愛イメージ—ジュール・バルベ作『田園の恋人』とワルツの図像—
伊藤公雄・杉本淑彦編『ヴィジュアル・カルチャーの中の親密圏』京大出版会、刊行予定



助手(日本画コース)

村松 航汰

1999年 広島県生まれ
 2021年 大学卒業制作 大学買い上げ
 第7回jam公募展 ナカガワ胡粉絵具賞(同22'受賞)
 第10回美術新人賞デビュー2022 入選
 「色想一想ひの色一展」(ギャラリーアートポイント/東京)
 2022年 第20回アートギャラリーホーム 入選
 第77回「春の院展」 初入選
 再興第107回「院展」 初入選
 「第4回尾道市立大学日本画選抜展 一明日の会」(福山天満屋)
 「小さな生き物たち」(みたらいギャラリー/広島)
 2023年 個展「村松航汰 日本画展」(東広島芸術文化ホールくらら)
 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(日本画)修了
 現在 日本美術院 研究会員



〈さやけし〉 紙本彩色 181.8×227.3cm 2023



助手(油画コース)

名座 昌美

1997年 岡山県生まれ
 2017年 グループ展『MYO』
 2019年 ONLY CONNECT OSAKA 企画補助
 2021年 グループ展『初期微動』/『キリトル-社会的摩擦から生じる〇〇-』
 2023年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(油画)修了
 現在 尾道市立大学油画助手



修了制作展 展示風景 平面、インスタレーション 2023



助手(デザインコース)

小西 美幸

1997年 香川県生まれ
 2019年 大学卒業制作 作品買い上げ
 「アートフェスティバルヒロシマ2019」ライブペイント
 2020年 令和元年度 小林和作奨励賞 受賞
 2020・ZERO展 0号展 入選
 「CROSS OVER Vol.25」(Yao Alternative Space/台湾・台中)
 広島銀行尾道支店にて作品展示/尾道市
 「Vigor 2021-GALLERY ART POINT 推薦作家美大選抜展」
 (GALLERY ART POINT/東京)
 2021年 奥野ビルギャラリーズアート展 入選
 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(油画)修了
 尾道市役所にて作品展示/尾道市
 「しまなみ海道・秋の音楽休暇村2021」にて舞台背景の絵画制作/尾道市
 2022年 「キリトル - 社会的摩擦から生じる〇〇 -」(Gallery Cafe ULTRA / 尾道市)



〈道〉 キャンパスに油彩 727×606mm 2021

赤木 範陸 テンペラ画技法演習
横浜国立大学 教授

秋山 隆 彫刻
木彫家

石多未知行 デザイン総合演習(大学院)
一般財団法人 プロジェクション
マッピング協会理事

今井 良枝 美術解剖学
周南市美術博物館 学芸員

今氏 亮二 情報機能論
有限会社ホットタイプ工房 代表取締役

藤本裕美子 絵画総合演習
コーディネーター、アーカス

宇高健太郎 日本画材料技法演習(大学院)
文化財保存修復学会 会員
膠文化研究会 運営委員

太田 啓介 デザイン学特講(大学院)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 技師

加藤 芳夫 情報機能論
元サントリ食品インターナショナル(株)
シニアクリエイティブディレクター

亀岡 知子 デザイン学特講(大学院)
株式会社リモナホールディングス 弁護士

神邊 篤史 人間工学概論
香川大学 博士研究員

天王寺谷千裕 芸術論特講II(大学院)
京都大学非常勤講師

大田黒衣美 絵画総合演習
名古屋芸術大学非常勤講師

苦名 悠 古美術研究演習
佛教大学

佐古 百美 情報機能論
絵本作家 イラストレーター

白木 彰 デザイン論
グラフィックデザイナー
愛知県立芸術大学名誉教授

菅原 智子 壁画技法演習
美術家

菅原 瑤子 図法及び製図(助手)
美術家

杉井 隼人 彫刻(助手)
美術家

坂梨 好香 版画制作演習(助手)
美術家

大悟法淳一 編集とデザイン
株式会社こほうデザイン事務所 代表

高垣 秀光 版画制作演習
版画家

高橋早紀子 東洋美術史I、II
愛知大学 講師

滝沢 具幸 日本画研究A I、II、B I、II(大学院)
創画会会員、武蔵野美術大学名誉教授

田代 昭夫 塗装法演習
漆芸家

田部 健次 金工演習、デザイン実習I(銀金)
金工作家

玉木 明 情報機能論
日本郵便株式会社 切手デザイナー

月岡 裕二 日本画実習I(箔押し、砂子、切金技法)
東京藝術大学非常勤講師、作家

Nina Chua (ニナ・チュア) 絵画総合演習
美術家

荒木 泰恵 古美術研究演習
東京藝術大学 古美術研究施設 助教

中曾 智子 デザイン実習I(陶芸技法)
陶芸家

西川真理子 写真(映像)演習(助手)
デザイナー

野田 尚之 写真(映像)演習、情報機能論、
デザイン実習I
シネマトグラファー

深谷 訓子 芸術文化論
京都市立芸術大学 准教授

福井 一尊 金工演習
島根県立大学人間文化学部 准教授

福田 栄一 日本画実習I(裏打ち)、日本画研究B II
福田装錦堂代表取締役

藤田 重信 編集とデザイン
フォントワークス株式会社
フォントデザイナー

久保 博雅 情報処理演習
四国大学助教

藤田 紗衣 版画制作演習
美術家

多田羅景太 デザイン史
京都工芸繊維大学 助教

松岡 剛 空間造形論
広島市現代美術館 学芸員

松本 祐助 木工演習、実習技術指導員(木工)
家具作家

真野 洋介 デザイン学特講(大学院)
東京工業大学大学院社会理工学研究科
准教授

村上 由記 金工演習(助手)
造形作家

弥中 敏和 情報機能論
株式会社GKデザイン総研広島 代表取締役

山本 晶大 木工演習(助手)
美術家

吉田 真菜 塗装法演習
漆芸作家

山崎 曜 デザイン実習I、
デザイン総合演習(大学院)
製本家

山田 祐子 文化財保存学概論
文化財修復技術者

山本 基 空間造形論
美術家

渡邊 義孝 建築環境論、空間造形論、図法及び製図
一級建築士、風組・渡邊設計室主宰

美術学科では、卒業修了制作展を開催しています。

学部4年間、大学院2年間の集大成となる展覧会です。

学生時代の集大成としての卒業制作はとても重要なものですが、卒業制作はアトリエで制作して終わりではありません。

美術学科では、毎年、学部4年間、大学院2年間の制作・研究の成果を発表する機会として尾道市立美術館と尾道市立大学美術館で卒業修了制作展を開催しています。学生たちは展覧会の計画から広報活動、図録制作、展覧会運営、終了後の次世代への引き継ぎという一連の活動をカリキュラムの一環として経験することになります。例えば、毎年自分たちでカタログを制作し、関係方面に配布すると同時に、展覧会を訪れる方々に販売しています。このような展覧会の成り立ちを実際に経験することが、卒業後の活動の糧となることに期待しています。



日本画コース卒業・修了作品優秀作品 朝平 敬香 〈窓辺の蟹気楼〉
4年次卒業制作 麻紙、岩絵具、膠、箔 227.3×181.8cm



油画コース卒業・修了作品優秀作品
能田 海 〈潜る〉 修了制作
映像、プロジェクター、スクリーン



〈I'm there, but I'm not there.〉 修了制作
映像、ブラウン管モニター



デザインコース卒業・修了作品優秀作品 高磯 凜斗 〈ローカルヒーロー画集〉 紙 210×210×3mm



美術学科は今年度で23年目を迎え、多くの卒業生たちが専門業界で活躍しています。

そんな卒業生3名から近況をレポートしてもらいました。

卒業生はどのような活動をしているのでしょうか。学部卒業後大学院に進学し、さらに専門分野での制作を重ね、作家を志向する人がコンスタントにいます。

絵画系(日本画、油画)の卒業生の中には創作活動を継続するためにアルバイトをしながら生活している卒業生も毎年一定数いますが、近年増加しているのが、中学、高等学校の美術の非常勤講師です。中には複数の学校を掛け持ちで勤務している卒業生もいます。

デザイン系では、専門のスキルを活かして、広告代理店やメーカー、デザイン制作会社、映像制作会社、放送局、ゲーム制作会社などへの就職の他、イラストレーターやアニメーターとして制作を続けている卒業生もいます。



2020年 日本画コース修了 多田 朱里

2020年 尾道市立大学大学院美術研究科(日本画コース)修了 【展覧会・受賞歴】 2017年 第72回春の院展 初入選(同22年) 2018年 再興第103回院展 初入選(同22年) 第62回尾道市美術展 市長賞 2019年 第4回Jam公募展 審査員特別賞 2020年 「月間美術」美術新人賞デビュー2020 入選 現在 日本美術院研究会員

大学院修了後は広島市の百貨店に就職しました。売場で販売等を経験したのちに、現在は宣伝担当として広告物制作やSNS運用をしています。在学中に院展に入選して百貨店で展示されたことをきっかけに、百貨店への就職も視野にいれました。

美術の大学に進むと就職先が絞られると思われがちですが、私の場合は逆に、大学で日本画を専攻していなければ同業界への就職は考えていなかったと思います。

正直、仕事と制作や趣味をすべて思い通りにこなすのはかなり厳しいです。学生時代に毎年出品していた再興院展は、社会人3年目にしてようやく出品、入選できました。

だからこそ学生時代に惜しみなくやりたい事を追求して欲しいです。大学ほど制作ができるスペースや切磋琢磨できる仲間がいる環境はありません。美術、特に日本画など独学では習得し難いジャンルに興味があるなら、大学で専門的に学修して充実した学生生活を送って欲しいです。



〈天災地変〉 172×217cm 2022



〈Y字路〉 100×100cm 2022



2022年 油画コース修了 木原 幸志郎

2022年 尾道市立大学大学院美術研究科美術専攻 修了 【二人展】 2021年 木原幸志郎・木原健志郎 二人展「Infinity Mirror」(Gallery A8T・仙台) 2022年 木原幸志郎・木原健志郎 二人展「Figure andGround」(Artglorieux・東京) 木原幸志郎・木原健志郎 二人展「Stranger」〈ロイドワークスギャラリー・東京〉 【助成】 2021年 公益財団法人クマ財団 第5期クリエイター奨学金 一般財団法人村主現代芸術文化財団 若手芸術家助成制度 【受賞】 2021年 The 16th TAGBOAT AWARD 審査員特別賞(徳光健治賞) Muni Art Award ファイナリスト



〈Beard〉 Oil on canvas 2023 1303mm×1620mm



〈Brother〉 Oil on canvas 2023 803mm×1303mm

私は卒業後すぐに双子の弟、健志郎と共に東京のギャラリーに所属し、アーティストとして活動しています。大学4年間は教育学部で美術を学びましたが、もっと深く美術を学びたいと思い尾道市立大学大学院に進みました。大学院の2年間は短く、またコロナとも重なってしまい通学したのはそれほど多くはありませんでしたが、この2年間のおかげで今があると思っています。先生方と対話をしていく中で制作のヒントを頂いたり、コンセプトを言語化することができ、制作を深めることができました。また、ギャラリーとの契約についての相談にも乗って頂きました。アーティストとしてどうやっていけば良いか、右も左もわからない私に親身になってアドバイスして頂きました。

学生の皆さんには、どんどん先生方と話をしてほしいと思います。時間にすると短い時間でしたが、私にとっでは先生方と対話した時間が一番の学びでした。



2021年 デザインコース卒業 穴吹 花恋

2021年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 デザインコース卒業 2021年 RCCフロンティアにデザイナーとして入社



〈広島ハジゴ飯〉 2022 RCCのワイド番組「イマナマ!」のコーナーロゴ。 「グルメ」・「大食い」・「バラエティ色」を意識。



〈Nibakoスタジオ〉 2022 Nibakoカーが県内を回りながら地元のまち自慢を集めるラジオ番組。頭文字Nをキャラクター的に使い、ステッカー、アイコンなどに展開。



〈Ren's Choice〉 2022 パーナリテイのおすすめ音楽を流すラジオ番組。 パーナリテイのイメージに寄せ、かわいらしい配色を意識。

私は大学卒業後、RCCの制作会社でデザイナーとして仕事をしています。テレビやラジオの番組ロゴ、テロップ・CG制作をメインに、イラスト制作やタイムテーブルなどの印刷物業務と仕事は多岐にわたります。

大学時代はグラフィックを学んでおり、学外のコンペにも挑戦しました。そこで手がけたデザインが実際に街で活用される経験があり、そのとき、自分の作ったデザインが多くの人の目にふれる仕事ができたいと番組制作に携わる仕事に興味を持ちました。

緊張感のある仕事ではありますが、自分が見つけたデザインが広島県中、今やインターネットを通して世界中の方々に見いただけることに、大きなやりがいを感じられています。

社会人になってからしか経験できないことも多くありますが、“学生だから”できたこともたくさんあったなあと思います。色んな場所に赴いて、色んなことに挑戦して、将来に繋げてもらえればと思います。



〈広島の被爆樹木の声を聴く。〉 2023 番組を象徴し、物語性が感じられる一枚になるよう意識。動きをつけて使用することを想定し、構成している。